

## 幼稚園におけるパソコン教育事例

高 野 盛 光

### 1. 問題設定

東海女子短期大学附属東海第一幼稚園では、平成8年度より年長児クラス（さくら組）の園児を対象として、原則週1回のパソコン教室を開催している。論者は、平成8年度のパソコン教室開講以来、本年度（平成17年度）まで年長児クラス担任とともに園児たちのパソコンを活用した保育活動に取り組んでいる。また、東海女子短期大学附属東海第一幼稚園全体でもインターネット接続環境を整備し、幼稚園事務室での活用が図られようとしている。

本稿では、東海女子短期大学附属東海第一幼稚園におけるパソコン教室実践について、同園におけるパソコン教室活動の事例を分析する事により、幼稚園におけるパソコン教育の現状と課題を明らかにする。

### 2. 東海女子短期大学附属東海第一幼稚園におけるパソコン教育実践

#### (1) 東海女子短期大学附属東海第一幼稚園におけるパソコン教育の導入

東海女子短期大学附属東海第一幼稚園（以下、附属幼稚園と記す）において、パソコン教室活動が導入されたのは、平成8年4月の事である。附属幼稚園では、従来から外部講師を招いて、「英会話教室」、「体育教室」、「絵画教室」が活動に取り入れられていたが、平成8年度以降、「パソコン教室」が新たに加えられる事となった。

平成8年度に始まったパソコン教室における当初の目的に関して、同年に採択された日本私学振興財団「平成8年度私立大学等経常費補助金特別補助（特色ある教育研究の推進）」の計画書【資料1】において記述した

#### 1. 幼稚園教諭のコンピュータ指導力の養成

#### 2. 幼児の絵画に関する興味・関心の高揚

#### 3. 幼児のコンピュータに対する親近感の育成

以上3点を論者は想定していた<sup>(1)</sup>。

当時、附属幼稚園のパソコン教室活動開始に先立ち、各務原市内の園を見学するなどして、どのようにパソコン教育を導入しようかと手探りの状況が続いていた<sup>(2)</sup>。その際「知育（＝短期大学や大学で行われていたパソコン操作技能の伝達）」を重視した活動ではなく、「園児たちがパソコンを『道具として』絵を描く事を『楽しむ事』」、「園児たちが互いに影響し合う中でお互いのよいところを認め合い、苦手を克服する事を助け合う事」を重視した内容にしたいと論者は考えていたし、今日でもその考え方に変わりはない。その根底にある考えは「パソコンの『技能教育』は小学校以降でも行う事が可能であり、幼稚園段階ではパソコンに慣れ親しみ、楽しむ事を重視したい」というものである。

『幼稚園教育要領』では「(2) 幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、遊びを通しての指導の中心として第2章に示すねらいが総合的に達成するようにすること。」、 「(3) 幼児の発達は、心身の諸側面が相互に関連し合い、多様な経過をたどって成し遂げられていくものであること、また、幼児の生活経験がそれぞれ異なることなどを考慮して、幼児一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した指導を行うようにすること。」が重視されている<sup>(3)</sup>。ここに上げられた「遊びを通しての学習」という考え方をパソコンを教具とした活動を通して具体化しようとしたのが、論者の考える附属幼稚園における「パソコン教室」の拠り所である。ただし、私が大学・大学院時代に研究していた領域は「教育行政学研究」、「教職理論研

究」であり、附属幼稚園におけるパソコン教室活動を始めた当初は、『幼稚園教育要領』におけるこれらの「幼稚園教育の基本」について別段意識していたわけではなかった<sup>(4)</sup>。

## (2) 附属幼稚園におけるパソコン環境

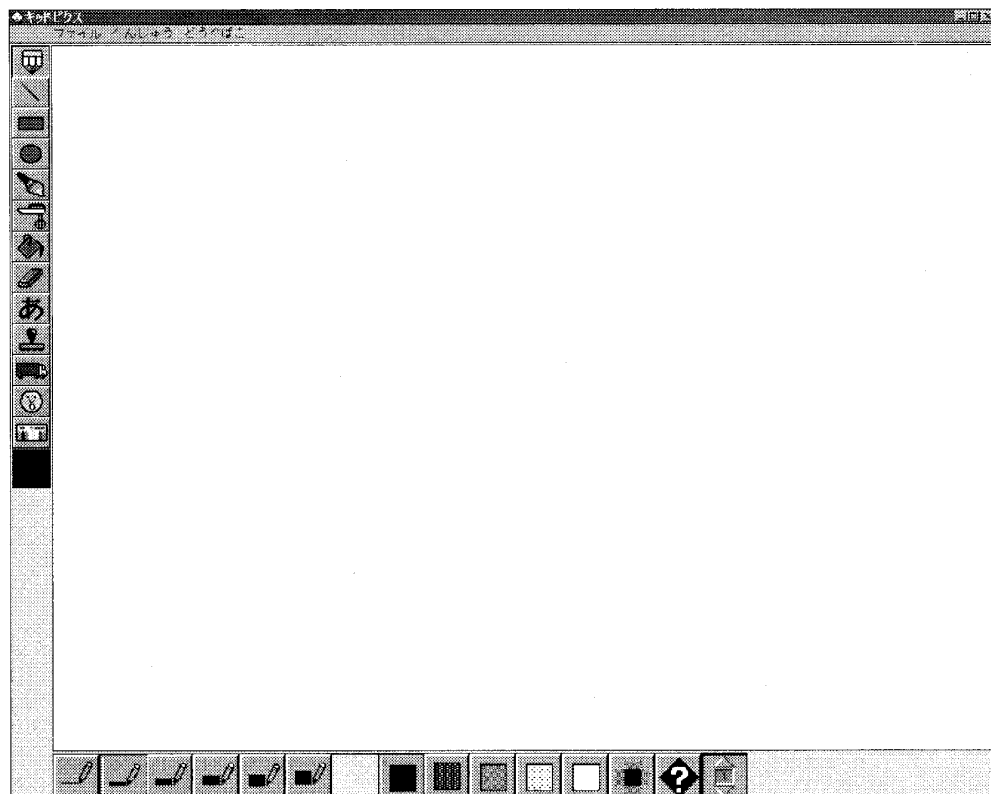
附属幼稚園でのパソコン教室活動の環境としては現在、6台のPC（OS：Windows95及びWindows98、Windows Me、Windows XP、使用ソフト：キッドピクス Ver.1.2）が整えられている。CPUはPentiumからPentium 4までの各CPUが混在している状況である。

パソコン教育が導入された時点では、Windows95＋キッドピクス Ver.1.2＋フライングカラースの組み合わせで教育に当たっていたが、【資料2】に挙げた「私立学校教育振興費補助金（教育改革推進特別補助金）私立幼稚園IT教育推進事業」（岐阜県地域県民部教育振興室）補助金等を活用した教育条件整備によって、現在の教育環境が整備されている。

幼稚園での指導にキッドピクスを選定したのは、論者が東海女子短期大学児童教育学科初等

教育専攻教育情報コースでの授業で既に活用しており、幼稚園児たちが使っても「操作が複雑ではなく」、「十分に楽しんで遊ぶ事ができる」と判断した事、「これまでパソコン教育指導に当たった事のない幼稚園の先生方も操作方法等々の習得が容易であるであろう」と判断した事に拠っている。また、フライングカラースを選択したのは以上の理由に加えて、「パーツをブロック感覚で扱う事ができ、また、パーツの中にアニメーションするものがあり、園児たちの興味を惹く面白さがある」事からであった。ただし完成した作品を楽しむためには同ソフトが必要となる事から、このソフトは4月初めにパソコン操作に慣れ親しむ目的で利用するに留まり、実際の制作活動ではキッドピクスのみを使用する事になっていた<sup>(5)</sup>。さらに動作が不安定であった事から現在では全く使用していない<sup>(6)</sup>。

また、「キッドピクス」は現在、「キッドピクス3 Ver.2」、「キッドピクススタジオ 2001」という製品が登場しているが、先に述べたように、附属幼稚園では「キッドピクス Ver.1.2」を利用している<sup>(7)</sup>。



【図1】キッドピクス画面

### (3) パソコン教室活動の流れ

附属幼稚園におけるパソコン教室活動の流れは大まかに述べて以下の通りである。

- ①4月 パソコンソフトを使った「ぬり絵遊び」
- ②5～9月 パソコンソフトの各ツールを使った「お絵かき」
- ③10～1月 卒園作品制作
- ④2月 印刷

年度によって多少の時期の違いはあるが、1年の流れは概ね上に述べた通りである。以下、それぞれの段階における取り組みについて述べる。

附属幼稚園においてパソコン教室活動を行うのは、先にも述べたように年長児になってからであるが、当該年度の前年度2月あるいは3月に、つまり年中児の折りに1度だけパソコン教室活動を園児たちは体験する事になっている。そこでは「年長さんになったらパソコンを使ってお絵かきあそびをしようね」という事で、キッドピクスを用いて「ぬり絵」に色を付けて遊ぶ事を体験している。

①の段階であるが、年中児に1回体験した「ぬり絵」を再度行う事により、色を塗るための「ペンキ缶」ツールの使い方を再度習得してもらう事を目的としている。自分で絵を描く楽しさを習得していく中でそういった事は徐々に解消されていくのであるが、子どもたちは塗り絵遊びが好きで5月半ばぐらいまでは、「ペンキ缶」ツールでのぬり絵遊びをもっとやりたいとわれわれに主張してくる。

②の段階では、自由に線を描く「不思議な鉛筆」ツール、直線を描く「線」ツール、円や矩形を描く「円」ツールや「四角」ツールをさらに学んでいく事になる（キッドピクスでは、「ツール」は「道具」と呼ばれている）。最初はおっかなびっくりで創作活動に取り組んでいる子どもたちであるがじきに自分で絵を描く事の面白さを見だして「先生、私の絵見て見て」と精一杯描いた自分の絵をわれわれに提示してくる。さらに様々なツール（「不思議な絵筆」ツ

ル、「電気ミキサー」ツール、）について、夏休み前にその使い方を体験するのであるが、これらのツールについては、「遊ぶといいながらも『卒園作品を完成させる』という目的を指向した『遊び』から自由にまさに「遊ぶ」ために子どもたちに触れさせている。言い換えれば、その後の「卒園作品制作」では主たるツールとしての位置づけはなされていない。それは以下の理由による。

それらのツールは水が滴るような（色によっては血が滴るようにも見えてしまう）表現の直線を引く事ができたり、枯れ枝（あるいは松葉）で線を引くような効果があったり、また、スタンプ遊びができたりもする。しかしながらツールの視覚的な面白さに子どもたちは関心が惹かれてしまい、ややもすれば、自分で描きたいと考えてきた絵を描く事よりもツールを使う事に魅せられてしまう。それらの線やスタンプを組み合わせて遊ぶ事に結びつける事が出来れば子どもたちの可能性をもっと引き出す事が出来るのであるが、われわれの取り組みはまだそこまで行き着いていないのである。『幼児にパソコンがいい！—実証された幼児期のパソコン効果—』において「同じスタンプでも、色を変える事で別のスタンプに見立てたり、スタンプを並べたり、重ねたりする事で、別の形に変化させ、それを自分の絵の中に生かす事ができるようになります。」<sup>(8)</sup>と述べられているように、われわれと子どもたちとの関わり合いの中で子どもたちの可能性を今以上に引き出す事ができれば一段高い教育的成果を上げる事ができる発展性の萌芽を秘めていると考えられ、どのように実践していくかが今後の課題となっている。

構成的表現力という事について、同じ『幼児にパソコンがいい！—実証された幼児期のパソコン効果—』では、「但し、構成的表現力の中で、自分の目標のためのプランづくりという活動、つまりイメージを具体化するには、どのようにしたらいいかという事については、幼児にとっては、まだレベルの高い活動である等に思われます。」<sup>(9)</sup>と、述べられている。この点については、われわれの取り組みでは後に上げるような作業を行う事によって成果を上げている

と考えられるが、そうした線やスタンプを組み合わせる事を子どもたちが楽しめるようになれば、さらにパソコンで絵を描く活動の幅が広がると考えられるのである。

③の段階では、卒園時に各自の家庭に持ち帰る「卒園作品」の制作活動に子どもたちは取り組んでいく。附属幼稚園でのパソコン活動の中核を成す活動であるので、以下詳細に考察を行う事にする。

先の『幼児にパソコンがいい！—実証された幼児期のパソコン効果—』にも述べられていたように「イメージの具体化」という目標は幼児にとっては1つの壁となっていると考えられる。しかしこれはCG(コンピュータグラフィックス)を学びはじめた段階では誰もが感じる事である。

論者は、短期大学で幼児教育専攻の学生対象にCG教育を実践しているが、CG制作ソフトウェア(グラフィックスソフトウェア)の操作についてある程度慣れてくるまでは「イメージの具体化」に意識を集中できないのは短期大学生でも変わりはない。また、これはワープロソフトのようなビジネスアプリケーションでも同様であり、ソフトウェアの操作を理解していない段階では、事前の準備をせずにパソコンに向かって「イメージの具体化」を行う事は特に容易ではないと考えられる。

附属幼稚園でパソコン教室を初めて導入した平成8年度の実践においては「パソコンを使って『絵を描く遊び』を楽しむ」事よりも、とにかく「パソコンを使って『絵を描かせる』」事で論者も幼稚園の先生方も手一杯であったがゆえに「パソコンに向かい合わせて絵を描く」事で取り組みが終わっていた。【資料1】の「教育研究課題」にあるように附属幼稚園でのパソコン教室は、パソコンを用いた「情報処理教育」(コンピュータ・グラフィックス制作)と「情操教育」およびその成果の「配信」という3つの側面を持っていたが、この時点では「遊び」よりも情操「教育」の傾向がより強く現れていた。

平成8年度の卒園制作はグループ(1グループ当たり3～5人)ごとの共同制作が完成型と

なっており、平成9年度以降の園児一人一人が完成させた作品を自分の作品として家庭に持ち帰る形とは異なっているが、これもその現れである。

平成8年度は初年度という事もあって「情操教育」の面に論者および幼稚園の先生は力点を置いていた。具体的には「お友だちが描いている時には自分の順番が来るまで待っている事」、「その時にはお友だちの邪魔にならない等に静かに待っている事」、「他グループのお友だちの絵を見に行くときには静かに行動する事」、「わからないお友だちがいる時には教えてあげる事」、「その際、お友だちに『こうしなければいけない』といった言い方はしない事」、「一緒に絵を作っていく中で他のお友だちと違った表現がしたいときにはみんなでどうするかを考えて話し合う事」等について、パソコン活動を通して子どもたちに気付かせ、他者との共同性を培わせるという事を「共同制作」を通して身につけてもらいたいとの目標であった<sup>(10)</sup>。

しかしながら、論者は幼稚園で子どもたちに教えるのが初めての体験、先生方は子どもたちとパソコン活動を展開するのが初めての体験という事もあり、「遊びながら学ぶというよりも、子どもたちに「教え」ながら自分たちも方法論を試行錯誤していた」事があり、論者は「こうしましょう」、「そんな事はしてはダメです」と直接的な指示を与えすぎていたと反省している。

反面「子どもたちが『自発的に』気付くように指導する」については、「静かにお友だちの邪魔にならないように、お友だちの絵を見て回る」事ができるようになる等、他者に配慮して行動する事を、幼稚園の先生方の指導のもと、パソコン教室活動を通して子どもたちは学んできたと考えている。

平成9年度以降は先にも述べたように「園児一人一人が完成させた作品を自分の作品として家庭に持ち帰る形」となっているが、これにはパソコン教室で「いきなり」描きたい絵を描くのではなく、下絵として事前に自分の描きたい絵をお絵かき帳に子どもたちに描いてもらうようにした事が大きいと考えられる。パソコンの

ある部屋へ来ていきなり「自分の好きな絵を描いてみよう」と言っても、子どもたちが制作にとりかかる事は難しく、描きたいものが固まった時には次の子どもと交代する事になりがちである。また、次のパソコン教室までの間に描きたいものが変わってしまって、またパソコン教室の時間に「何を描こうかなあ」と考えるところへ戻ってしまいがちである。下絵を事前に「お絵かき帳」に描いておく事によって子どもたちはパソコンでのお絵かきにすぐに取り組む事ができるのである。そうした下準備をしておく事によって、パソコン教室での創作活動において、下絵にはなかったものを描き加えたり、デフォルメしたり、色を変えてみたり、逆に下絵ではあったものを省略したりと、想像力を働かせて絵を描く事に集中している。このように「イメージの具体化」をパソコン教室外である程度完了させておく事によって、パソコン教室ではそれをもとにイメージをさらにふくらませていけるようになったと論者は考えている。

下絵を描く事が間に合わなかった子どもやパソコンに向かうとせつかく自分が描いた下絵があっても描く事に取られかねない子どもがいはいわけではない。その際担任の先生や回りのお友だちが働きかける事によって、そうした子どもたちも自分の描きたいものを見いだして行くのである。これも予め明確な形にまではできていなかったけれども「そうしようと考えた」プロセスがあってパソコン教室でイメージを具体化できるようになったと考える事はできないであろうか。

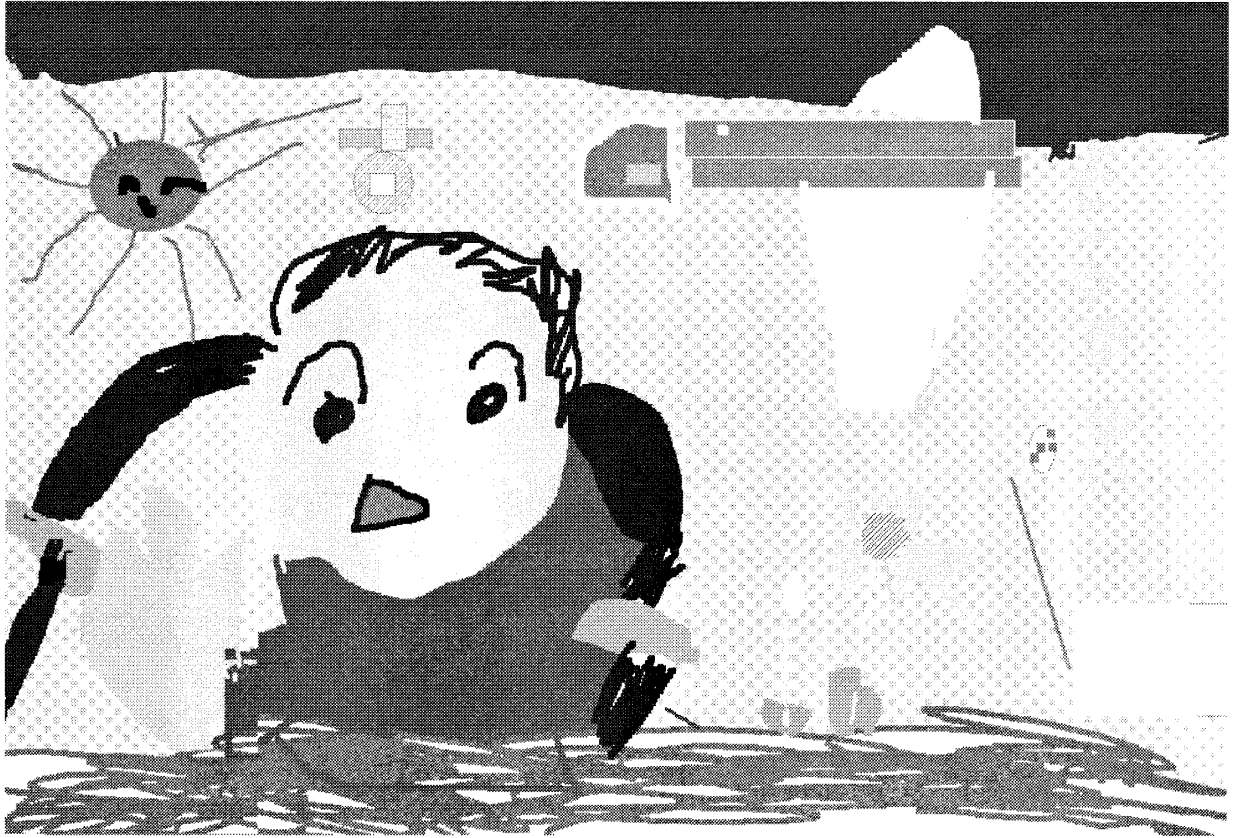
1年目が終了した時点で、年長の先生から聞く事ができた事であったが、附属幼稚園の先生方は論者が同園の「先生方の」パソコン指導者としてパソコン教室活動に関わるのではなく、パソコン教室活動においては「主たる」指導者として子どもたちの教育にあたる事を期待していた。この点で【資料1】のうち「教育研究の概要及び効果」にある「幼稚園教諭を主たる教授者として園児の教育にあたる」事を前提としていた論者の考え方とは異なっていたのであるが、これはパソコン教室活動を導入する段階で幼稚園の先生方と指導体制について十分に検討

を行う事ができなかった結果である。

平成9年度以降は、その事を踏まえて子どもたちに論者が「直接」指導する機会をできるだけ多く持つように心がけている。そうする事によって子どもたちの細かな感情の揺れ、先生方の指導上の心配等を論者も少しずつ共有できるようになってきていると感じている。それでも私の考えではあくまでも「主たる」指導者は幼稚園の先生方であるべきであると考えている。上に述べた先生や回りの子どもたちの働きかけはパソコン教室を含めた幼稚園での教育で時間・空間をより多く共有している事に裏付けられたものであるがゆえに十分な効果を上げており、週1回取り組む事が原則でありながら、様々な行事によってパソコン教室が休みになりがちで、月に2～3回子どもと接するのが現状の論者だけでは今のような成果を上げる事は不可能のように思われる事がその理由である。

④は子どもたちが制作した絵を幼稚園の先生あるいは論者がプリントアウトして家に持って帰る事が出来るようにする段階である。キッドピクスでプリントアウトして持って帰る事が出来れば問題がないのであるが、現行の環境ではプリンタ（EPSON MJ-3500）との相性であるのか、うまく用紙の真ん中に印刷ができない。そのために完成した作品の「BMP ファイル」を Picture Publisher に取り込んで枠線付けを行い、用紙の真ん中に収まるようにさらに80数%の縮小をかけて印刷用の「BMP ファイル」へと加工して印刷を行っている。先生方はそれをさらに卒園アルバムに収まるように余分な部分を裁断するなどして完成品へともっていくのである。以下7ページ及び8ページに掲載した【図2】～【図5】は平成16年度に完成した園児作品の例である<sup>(12)</sup>。

平成15年度までは、先にも述べたように園児の作品をプリントアウトして各家庭に卒園作品として配布していたが、平成16年度には子どもの作品（1点）をCD-Rに焼いて配布する事も試みた。平成16年度はほとんどの家庭にプリントアウトした作品+CD-Rを卒園児に配布したが、今後CD-Rのみにするかどうかについては今後の検討の余地のあるところである。

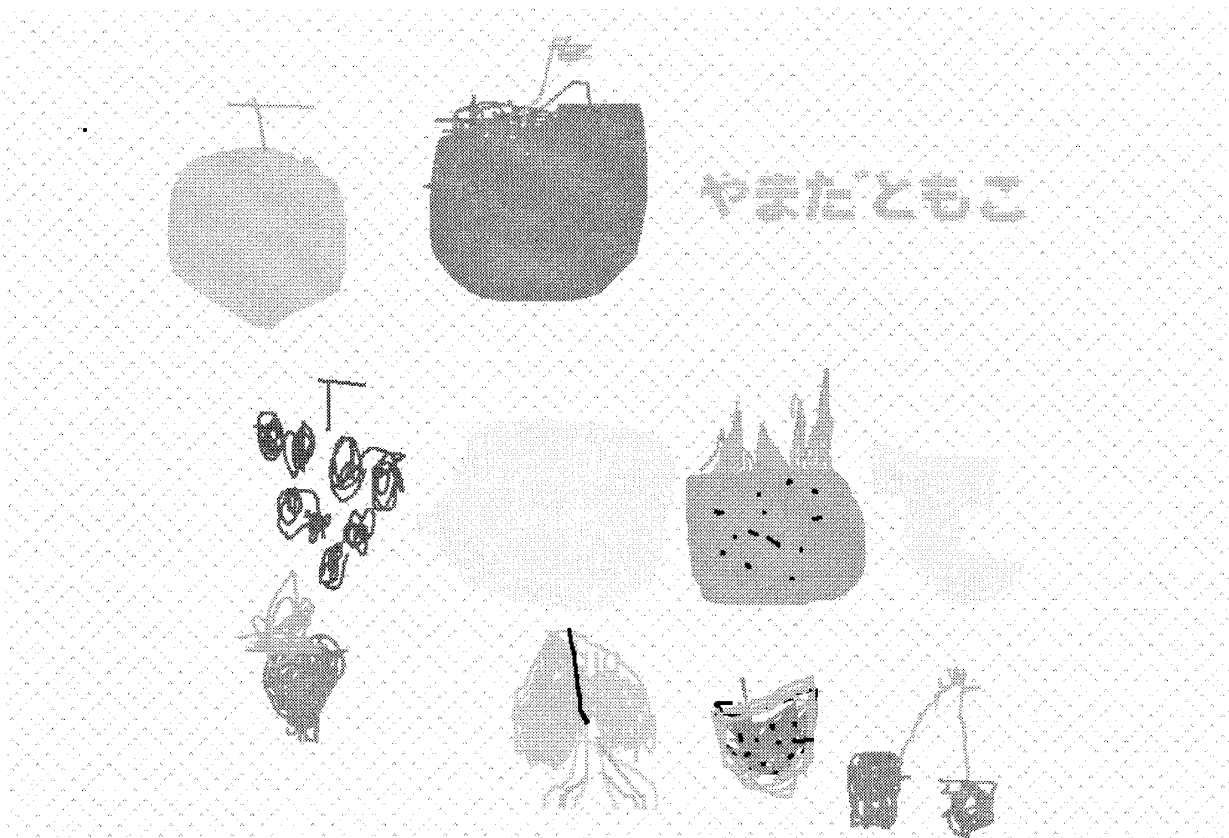


【図2】よこやまゆいさんの作品

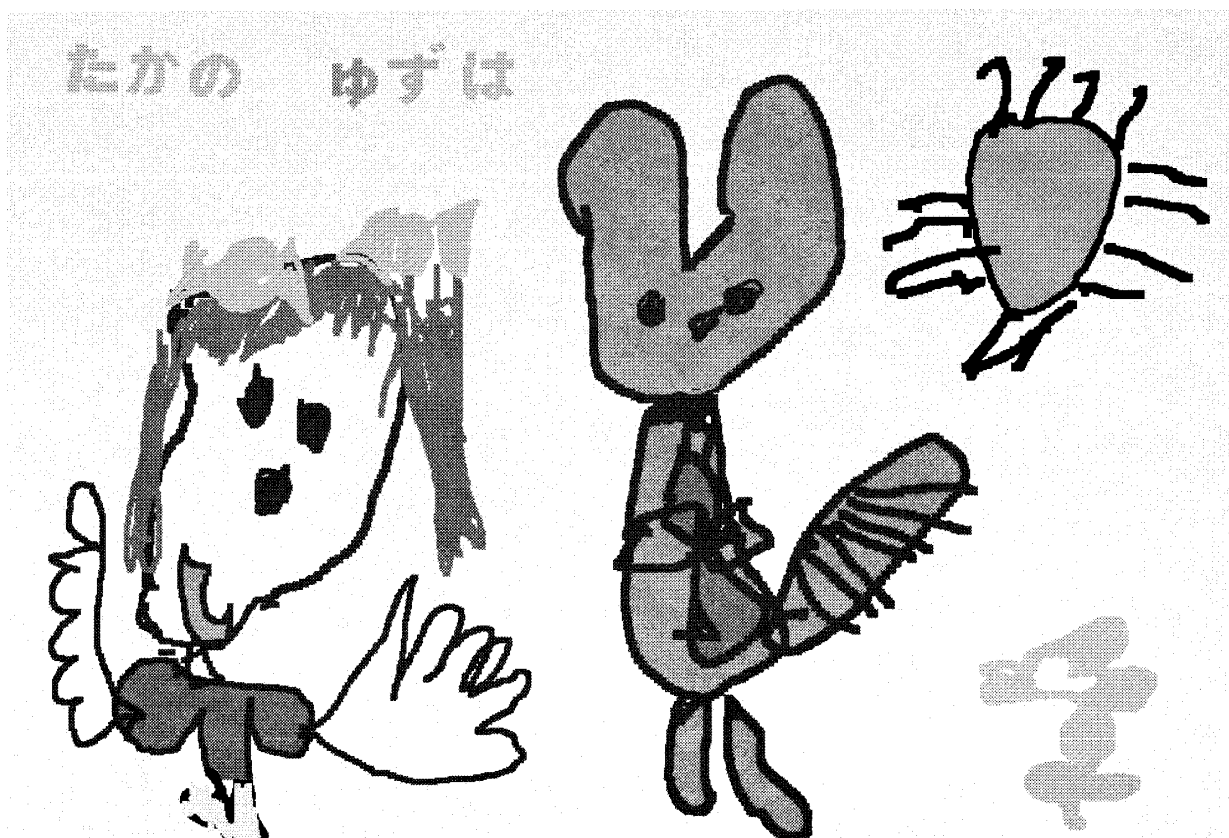


【図3】たかぎみふゆさんの作品





【図4】やまだともこさんの作品



【図5】たかのゆずはさんの作品

### 3. おわりに

本稿では、附属幼稚園でのパソコン教室の取り組みについては取り上げた。

園児たちがパソコンでの「お絵かき遊び」そのものを楽しんでいる事、その作品を家庭に持ち帰る事ができていることは本稿で紹介したとおりであり、その点では附属幼稚園での取り組みは成果を上げていると言うことはできる。しかしながら、担任の先生が入れ替わる事により、また、単年度でパソコン教室が完結してしまう事により取り組みに深みを与えることが十分でないことも事実である。

さらには、卒園児のお母さんとお話しをする機会があった時に伺ったことであるが、せっかく附属幼稚園においてパソコンで遊ぶことを知った子どもたちが、卒園後はパソコンに触れる機会があまりないという現実もある。

今後の幼稚園でのパソコン教育を考える上で、幼稚園でのパソコン教育の質を高めるとはどういう事であるのか、幼小連携の中で幼稚園段階で導入したパソコン教育をどう接続していくのかを考えながらさらに研究を進めていきたい。

### 註

- (1) 【資料1】を参照の事。
- (2) 見学のために訪問した各務原市内の幼稚園では、数の大小をゲームで学習するソフトを用いて、園児たちがパソコン活動に取り組んでいた。附属幼稚園でも知育ソフトを何本か購入して論者が検討したが、最終的にはグラフィックスソフトを用いた「お絵かき」に決定した。
- (3) 文部省告示第174号『幼稚園教育要領』第1章 総則 1 幼稚園教育の基本の(2)および(3) (『幼稚園教育要領』(株式会社フレーベル館、平成11年2月1日)、p.2)
- (4) 論者は、附属幼稚園においてパソコン教室講師として園児の指導に当たっているが、東海女子短期大学・東海女子大学においては、「情報教育」関連科目の教育・研究に従事している。パソコン

教室講師として幼稚園教育に当たり始めた当初は東海女子短期大学児童教育学科初等教育教育情報コースにおいて、同コース学生に対して「情報教育」に当たっており、この時点では幼児教育についてはほとんど予備知識のないままに附属幼稚園でのパソコン教育に関与する状況であった。

今日まで附属幼稚園においてパソコン教育を展開するに当たっては、茶座伊都子副園長、各年度の年長クラス主任、年長クラス担任をはじめとする同園の先生方との対話の中で幼稚園教育の在り方について受けた数々の示唆に拠るところが大きい。

- (5) フライングカラースのパーツの中には色に変化する事により引いた線が流れるように見えたり、絵が輝くように見えたりするものがあったり、背景画像として宇宙空間や中世のお城の中のような画像を選ぶ事ができたりして、非常に面白いお絵かきソフトであった。しかしながら、そうした特殊効果は作成した作品はフライングカラースで開かなければ楽しむ事ができず、また、背景画像に合わせた絵を作成する域を超えない等の事があったので、主たる教材として利用する事はなかった。
- (6) さきに述べたように「フライングカラース」で制作する面白さの1つに「パーツの色が変化する事によってアニメーションしているように見える効果」があるが、選択したパーツによってはソフトウェアの動作を不安定にするものがある。最悪ソフトウェア自体を再起動しなければならない等の症状が起こるので本格的な利用には至らなかった。
- (7) 「キッドピクス3」、「キッドピクススタジオ2001」では、操作画面(インターフェース)にかなり変更が加えられており、特に「キッドピクススタジオ2001」においては、子どもたちが利用するにはパレットが小さい等の点から導入を見送っている。「キッドピクス3」は、今年度の「私立学校教育振興費補助金(教育改革推進特別補助金)私立幼稚園IT教育推進事業」(岐阜県地域県民部教育振興課)補助金により整備したばかりであり、利用していない状態である。「キッドピクススタジオ2001」ほどはパレットが小さくはないので、今後使用して操作感を確認していく中で現在利用中の「キッドピクス Ver.1.2」の後継ソフトウェアとして採用する可能性はある。



(8) 坂元 昂他『幼児にパソコンがいい！—実証された幼児期のパソコン効果—』（産調出版株式会社、1997年10月15日）、p. 46

一緒に担当している年長クラスの先生方、同園副園長 茶座伊都子先生に感謝をいたします。

(9) 同上書 p. 49

(10) 同上書で「1. 順番待ちができる」、「2. 約束事を守れる」、「4. 手伝ってあげる」、「6. 相談する」、「7. 楽しんで一緒にやっている」、「9. 他者に配慮する」、「11. 協同作品完成時に一緒にできたという気持ちになる」と記述されている各項目がそれに該当すると考えられよう。同上書 p. 62

(12) 横山結さん、高木美冬さん、山田智子さん、高野柚葉さんの作品の論文への引用については、各作品がWebを含めたいかなる媒体においても公開されていない事に鑑み、著作権上および未成年者の権利保護について保護者の親権者としての代行の点から各人のお母さんの許可を得て引用させていただいた。

#### 【引用文献・参考文献】

『幼稚園教育要領』株式会社フレーベル館、平成11年2月1日

坂元 昂他『幼児にパソコンがいい！—実証された幼児期のパソコン効果—』（産調出版株式会社、1997年10月15日）

編著者 倉戸直実 岸本義博『コンピュータを活用した保育の実例—ゆたかな心を育むために—』（株北大路書房、2004年5月15日）

#### 【謝辞】

本論文執筆に当たり、子どもさんの作品の引用を快諾してくださいました横山結さん、高木美冬さん、山田智子さん、高野柚葉さんのお母さんに感謝を述べさせていただきます。

また、貴重な資料をいただきました東海女子短期大学附属東海第一幼稚園事務長 玉木三巳様ならびに平成8年度よりパソコン教室活動を

## 【資料 1】

論者らは、日本私学振興財団「平成8年度私立大学等経常費補助金特別補助（特色ある教育研究の推進）」の申請にあたり、計画書を提出し、当該年度の補助を得られた。以下、その主要部分を抜粋して資料とする。

### 平成8年度「特色ある教育研究の推進」計画書より

教育研究課題：「幼稚園における情報処理・情操教育の実践及びその成果のインターネットによる配信実験研究」

関連するカリキュラムの科目名：「教育情報処理Ⅱ」

対象学生の範囲：児童教育学科

担当教育機関・部局：児童教育学科及び附属東海第一幼稚園

担当部局責任者所属・氏名：教育情報研究室・高野盛光

#### 教育研究の特色・独創的な点（150字以内）

インターネットを利用した教育・研究情報の公開は就学前教育段階ではまだ十分とはいえない。本研究ではその点に着目し、附属幼稚園の協力の下に幼稚園におけるコンピュータ教育の可能性とその成果のインターネットを通じた配信のもつ教育変革の萌芽を探究することを目的とする。

#### 教育研究の概要及び効果

本研究では幼稚園でのコンピュータを用いた情操教育の可能性を探るために、グラフィックスソフト・MIDIソフトを利用した園児たちの美的センスの育成を追求する。

具体的には本学附属幼稚園の協力の下にDOS/Vコンピュータ＋Windows95＋グラフィックスソフト＋MIDIシーケンサ＋MIDI音源モジュールを中軸としたコンピューティング環境を利用し、幼稚園教諭を主たる教授者として園児の教育にあたる。

その際、視覚的にインパクトがあり園児が受け入れやすいであろうグラフィックスソフトを用いた情操教育を端緒とする。週2回のコンピュータ教育を行い、内1回は本研究者と幼稚園教諭の2人が指導にあたり、残り1回は教諭のみが指導にあたる。その目的は「1. 幼稚園教諭のコンピュータ指導力の養成」「2. 幼児の絵画に関する興味・関心の高揚」「3. 幼児のコンピュータに対する親近感の育成」の3点である。成果については本学ホームページにリンクをはった幼稚園のホームページ上でインターネットを通じて公開していく。MIDIシーケンサを用いた音楽における美的センス(創造力)の育成については教諭の指導力の向上が顕著となった時点においてスタートさせる。その理由はグラフィックスソフトの操作・指導とくらべた場合、教諭がより高度なコンピュータリテラシーを備えている事が求められるからである。

その効果は「1. 幼稚園におけるコンピュータを用いた情操教育を内外に問うことによりその反応をフィードバックできる」「2. 高等教育機関及び初等中等教育機関に浸透しつつあるインターネット利用をはじめとしたコンピュータ教育を就学前教育段階にまで拡大する理論的バックボーンを形成・蓄積する」「3. コンピュータ教育を通じて幼児の隠れた個性を引き出すことが可能となる」以上の3点である。

【資料 2】

平成 15 年度岐阜県私立学校振興費補助金（教育改革推進特別補助金）

私立幼稚園 I T 教育推進事業実施要領

岐阜県地域県民部教育振興室

1 趣旨

教育条件の維持向上を支援するために、幼児がコンピューターに慣れ親しませるための環境整備を図り私立幼稚園における I T 教育の推進に要する経費の一部を助成する。

2 補助金交付の対象者

私立幼稚園を設置する学校法人

3 補助対象経費

(1) 新規設備拡充関係

1 園に 5 台以上まとめて新規にパソコンを購入するものとし、1 台につき 40 万円までを補助対象経費とする。

ただし、プリンター、プログラムソフト、机、椅子等教育研究用機器備品を含めた経費とする。整備園（5 台以上設置済みの園）と認めた園は、1 台でも可。

限度額 補助対象経費 400 万円（補助金額 200 万円）

(2) 維持管理費

5 台以上まとめて新規にパソコンを購入する園、あるいは整備園（既に 5 台以上設置済みの園）の追加ソフト（プログラムソフト等で教育用に係るものとする。）購入費、パソコンに係るリース費用等の維持管理費。

限度額 補助対象経費 50 万円（補助金額 25 万円）

(3) 教員の I T 教育能力向上の研修の実施に係る謝金

5 台以上まとめて新規にパソコンを購入するもの園、あるいは整備園（既に 5 台以上設置済みの園）が S E（システムエンジニア）、パソコンインストラクター等の専門家を外部から招き、教員に対して I T 教育能力向上のための研修を行った場合の謝金。

ただし、専門講師派遣事業の補助対象となるものは除く。

限度額 補助対象経費 50 万円（補助金額 25 万円）

4 補助金額

上記 3「補助対象経費」で算出した補助対象経費の 1／2 以内で、予算の範囲内で配分する。

5 提出書類

(1) 事業計画書（別紙 1）

(2) 事業実績書（別紙 2）

6 提出日

別に定める日